

芭蕉元禄事業 奥の細道むすびの地「大垣」十六万市民俳句ポスト

平成二十九年十月度 入選句（投稿総数二千八百九十六句・一般投句数五百八十二句）

特選

選者 長野 美代子

石庭の石も仏と見ゆる秋 大垣市 後藤 摩弓

今年は暑い日が続きとても短かい秋となりました。先日もふらつと吟行に出かけ、静かな山寺に立ち寄った折どこからか涼しい風が木洩れ日と共に頬を触れてゆき、清々しい一刻でした。「石庭の石も仏に見ゆる」とは、とても素晴らしい表現であり、心の洗われる思いです。秀句ですね。

一つづつ秋をとり出す土瓶蒸 大垣市 日比野 友子

秋となり「馬肥ゆる」季節となりました。そろそろ松茸の土瓶蒸も食したくなります。今年の松茸はどうでしょうね。すてきな措辞の使い方が良いですね。「一つづつ秋をとり出す」言えそう

で言えません。
素敵な御句です。

這ひ松と吹かれてをりぬ鷹のかげ 安八郡輪之内町 野村 照子

いい御句ですね。「這ひ松」と「鷹のかげ」とは次元の高い発想に感心いたしました。拝読いたしただけで景が見えてきます。私もその場所にいる思いです。素晴らしいですね。

秀逸

溝川の流れ急なり芋水車 大垣市 棚橋 みさを

稲雀ぱつと群れ翔つ水の郷 大垣市 坪井 克枝

稲屑火の煙鳶とまい上がる 大垣市 佐竹 余史美

夜の稲架のまどかな香り貰ひ風呂 安八郡神戸町 高橋 泰

豊穰の枹のさばきや秋祭 不破郡垂井町 児玉 昌巳

雑踏の中の寂しさ曼珠沙華 大垣市 新町 恵子

もみじ葉に武者の無念の関ヶ原 大垣市 田中 孝典

渦巻ける宙はゴッホの星月夜 羽島郡笠松町 易田 喜芳子

白き肌うぶ毛も愛し衣かつぎ 大垣市 宮上 美濃留

釣り舟に寄せては返す月の波 千葉県千葉市 箕輪 恵三

入選

虫の音をゆるりと聞ひてしまひ風呂
えり首に秋来しことを知る朝
秋灯火色の榧せたる小辞林
名月や我と影ゆく鄙の道
休み田はいつの間にやら萩の原
霧深し伊吹全容隠しをり
満月の照らす堤の六地藏
ちよろちよるとキッチンの水油照
堀めぐる舟波しづか初紅葉
天高しバイクは音をひびかせて

岐阜市	富永	萬里
福井県敦賀市	山田	美千代
大垣市	棚橋	みさを
不破郡垂井町	久保田	紘義
大垣市	大角	信華
大垣市	岡田	あや子
大垣市	安田	直隆
瑞穂市	伊藤	恵水
大垣市	野村	多佳子
大垣市	田中	雅子

入選

走り根の苔にはずみて木の実落つ
参道の杉に賽銭きらり秋
わが影の家までついてくる月夜
川底の石まで透かす月明り
寂しさや思わず芒の穂を揺らす
いわし加工場路地裏の風匂う
新蕎麦や江戸より続く六代目
伊吹嶺のよく見ゆる朝大根蒔く
酔へばもう古酒も新酒もなかりけり
月にまで届け太鼓の乱れ打ち

大垣市	宮脇	和子
大垣市	安部	芳枝
大垣市	福永	峰子
不破郡垂井町	児玉	信子
岐阜市	高羽	碧風
埼玉県春日部市	水	夢
瑞穂市	谷	牛歩
安八郡神戸町	高橋	日出美
三重県四日市市	後藤	允孝
三重県津市	村山	好昭

選者吟

宙を切る竿鏑鮎の長良川

美代子